

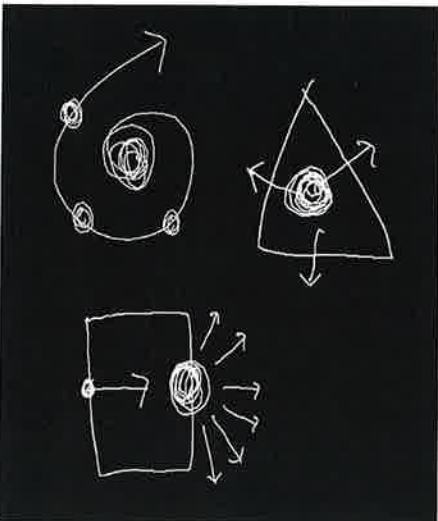
BIRD-KISS

パブリックアートの時代へ

同じ は 違う。



Kazumi Ootake

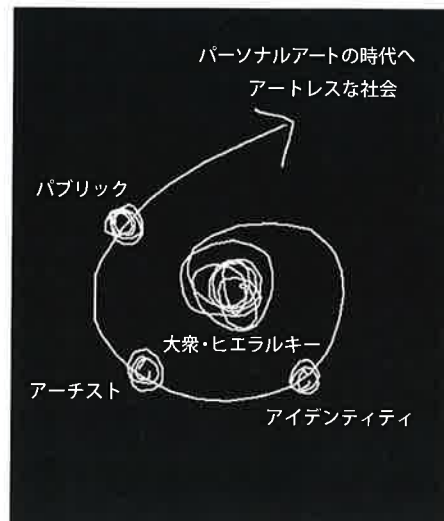


BIRD-KISS がめざす世界

もともと誰もが持って生まれた存在価値を取り戻し、フラットなヒエラルキーのために自分自身をリセットする。そのきっかけづくりとなる試みがBIRD-KISSの役割です。自分を大切にし、自分を愛することが、地球愛へのスタートだと思います。

そして自己愛から他者愛へ。さらには、大きなネットワーク（パブリック）となって、地球規模の愛へと広がっていく。

BIRD-KISSは、アートコミュニケーションを用いたメソッドを通してアートからの気づきによる文化的社会の形成をめざしています。アートレスな社会とは、人々が高次元な意識と感情を持ち、作品なしでコミュニケーションすること。ひとり1人の人生そのものがパーソナル・ライフ・アートと呼べるような輝きをもった作品に変わっていく。それが巡ってゆく社会が、きっと地球を救うことにつながってゆくと信じています。



BIRD-KISS メソッド

アートからの気づきによる文化的社会の形成をめざすために、3つの考え方が大切だと思っています。

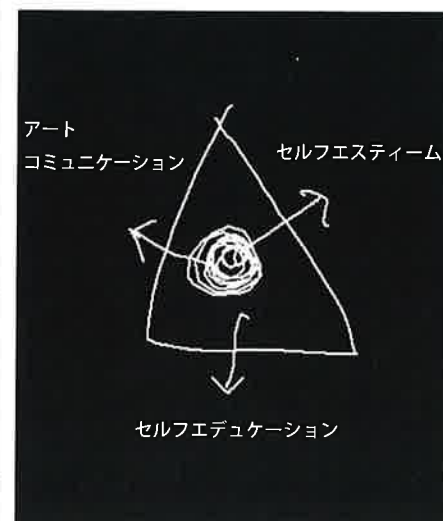
その3つとは、●自己肯定感を形成する「セルフエスティーム」

●自己発見や自己認知を深めるための自立学習である「セルフエデュケーション」

●作品が人々のために役立ち、公的＝パブリックなものへと昇華していく「アートコミュニケーション」

この3つの軸でアートによる問題解決を図るのがBIRD-KISSメソッドです。

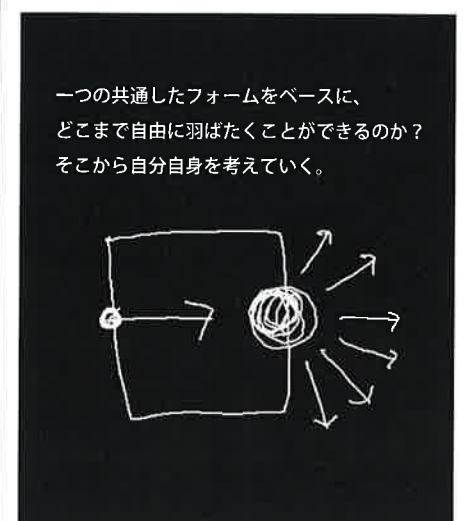
「ぬり絵」、「貼り絵」、「折り紙」、「らくがき」など、子どもの感性で取り組み、自己投影しやすいシンプルな表現を通して、誰もがオリジナリティを大切にし、自らの作家性を発揮し、素直な自己表現を可能にする。そんなパーソナルアートの時代を構築してゆくための、BIRD-KISSメソッドです。



BIRD-KISS = 同じは、違う。

一見、魚のようにも、動物や昆虫などに見える「鳥」たち。愛娘の一葉（当時6歳）とコンピュータを前にして、電子ペンをタブレットの上で動かして遊んでいるうちに、「鳥」たちはついに、100点を超えてしまった。気づいたら「くちばし」「両目」「足」という3つのアイテムさえあれば「鳥」でいいというルールによって「鳥-BIRD」たちはどんどん鳥らしさから離れて自由な生き物として僕の頭の中に定着した。

振り返ると、それが自分の創作活動にはなくてはならないスタイルが出来上がった瞬間でもあった。まったくもって愛娘の一葉のおかげである。一つの共通したフォームをベースに、どこまで自由に羽ばたくことができるのか？そこから自分自身を考えていく。他者を考えてゆく。「同じは違う」という発見からパーソナルアートな時代を考えていきたい。



未来の子どもたちと一緒に
ぬり絵を楽しむ。ぬり絵から学ぶ。
そこから、いっぱい笑顔があふれる
平和な世界が広がってゆく・・・。

BIRDのぬり絵ワークショップに参加された方々に
「ぬり絵ってしたことありますか？」とお聞きすると、みなさん「はい、小さい頃ですがあります」とおっしゃいます。「で、いつ、やめたんですか？」と聞き直しますと、みなさん悩んでしまいますね。そこで僕は「それは、はみ出さずにぬれた時です」「型にはまるため、既存の枠にはまるため、常識を破らないための予行演習が済んだからです」とお伝えします。みなさんはどう思われますか？もともと創造的な、独創的な、革新的なアーティストとして生まれてきた子どもたちは、そーやって、型にはまり、枠にはまり、常識人として育てていく。悪いことではありませんが、そーして、いい教育、いい大学、いい企業へと続く列車に乗せられていく。しかし、線路はどこまでも続いていくわけではありません。突然、いつまで人と同じことしてんの？自分らしく生きたら？ディベートだよ大事なのは。自分の意見ないの？オリジナリティは？うちの企業にいない人材はいないかね？と言われる時代になりつつあります。さて、どんな自分であることが笑顔で楽しくいられるか。世界の子どもたちの笑顔があふれる地球を守ることができるか。みなさんはどう思われますか？

たかがぬり絵、されどぬり絵。
まだまだチャレンジは続きます。



(BIRD おおたけ)

私たちがぬり絵を中心としたワークショップで
伝えたいことを BIRD-KISS ホームページで
たっぷりご紹介しています。ぜひアクセスして
ください。ご意見などいただけましたら幸いです。



www.bird-kiss.com

BIRD-KISS プロジェクト

01 パーソナル アートの時代へ

雨が降れば降ったほうがいい。
晴れたら晴れたほうがいい。
あなたが素敵だと思っていることを、
素敵と楽しさのエンジンで
回して生きていきましょう。

ひとり1人の自己表現を
アートに変えながら、
あなた自身の人生をキャンバスとした
アーティストとして
自分の人生を彩っていきませんか。

ひとり1人の人生そのものが
パーソナル・ライフ・アートと
呼べるような輝きをもった作品に
変わっていく。

人生におけるすべての活動を
自己表現の一環として
捉えていけるようなセンスを持っていれば、
社会との関わりもアート活動となり、
それが巡っていく社会は
パーソナル・アーティストの躍動する
アーティスト空間になります。

02 フラットな ヒエアルギ

BIRDなのに飛べないし。
BIRDなのにクチバシは黄色くないし。
でもね。
飛ぶからBIRDって誰が決めたの？
クチバシが黄色いのがBIRDだって
誰が決めたの？
その誰さんってね。
実はワタシかも。

04 セルフ エドケーション

葉っぱみたいなBIRD。
金魚みたいなBIRD。
ピアノみたいなBIRD。
みんなの知ってるBIRDだけど
みんなの知らないBIRD。
BIRDがBIRDとKISSすると
新しいBIRDが生まれる。
その新しいBIRDが、ワタシ。
ワタシBIRDを見つけてみませんか？

03 アイデンティティーズ

あえて水の中を飛ぶことにした。
あえて飛ぶより早く走ることにした。
BIRDだから。
BIRDのくせに。
BIRDらしく生きなきゃって。
誰が言ったの？
誰が決めたの？
その誰さんってね。
実はワタシかも。

05 パーソナル革命 (宿命) の時代へ

セルフアートとは
自分じゃないものからの脱出への手がかり
そしてオープンパブリックへ
アートがパブリック化し、
文化創造社会を形成してゆく。
たった1人のわたしから
たった1人のあなたへ
個人～家族～市民～地球人までを
巻き込んだアートへ
奇跡のぬり絵アーティストたちこそ、
次なる「パブリック楽園」のテーマに！

BIRD-KISS プロジェクト